

プロジェクトコーナー

プロジェクトコーナーでは、会費で実施している定期支援以外で、外部団体の助成金や、会員・市民の使途を特定した大口寄附による事業についてご報告しています。

この3月には3件が終了しました。

生活苦・離村・死を乗り越えてつなぐ 村の健康を守る保健ボランティア育成の活動 —今井記念海外協力基金助成事業(2期目)完了—

現地滞在中の九島さんから、プアゴ村の保健ボランティアの一人、サラさんが流産して大量の輸血が必要になった、近くで献血してくれる人を探しているところという知らせが入りました。2日後、残念なことに「サラさんの追悼として、プアゴ村で妊婦対象の特別フリークリニックを実施します」というメールがナプサさんから届きました。妊産婦の検診に重点を置いてきたはずなのに、その担い手であった保健ボランティアが高血圧症で流産し、亡くなったことは、パサンバオにとって衝撃だったことでしょう。亡くなって1週間もたたないうちの巡回診療実施には、彼女の死を無駄にしたい、妊産婦検診の重要性への気付きの機会としたい、というナプサさんの強い意思を感じました。



3月23日に行われたプアゴの妊産婦検診会場

サラさんの死だけでなく、本事業は52号で報告のように、地方選挙の結果に翻弄されたり、物価高のなかで仕事を求めて村を離れる保健ボランティアもいて、「住民による持続可能な健康増進」のタイトルにふさわしい成果を上げられるかどうか、HANDSとしてはハラハラドキドキの1年でした。



ツヤン村のヘルスポストにおける血液型検査。フィリピンでは血液のストックが無く、輸血が必要になると献血者を探さなくてはならない。緊急時には村の中で対応できるように、パサンバオでも今年からこの血液型検査を保健ボランティアの技術研修に取り入れた。後方のベールをかぶった女子3名は、宗教学校の帰りにのぞき込んでいるところ。

しかし、プアゴ村やツヤン村ではヘルスポストを増築し、ハーブ薬の製造・販売や患者への指圧治療など住民の健康を守る拠点としてしっかり機能しています。また、治安の関係で日本人は一度も入れなかったパリンバン村でも、遅れていたトイレ建設やヘルスポストの建設を事業期間内に終了できました。

前号で土地問題によりトイレ建設延期と報告のシギルも、ヘルスポストは巡回診療や日常の患者対応拠点として機能しています。最後までパサンバオスタッフの受け入れ許可がでなかったバルット島については、その後別の団体の支援が入ったという連絡をナプサさんから受けました。ニーズが強かった村だけに、とにかく医療サービスが届いたことにホッとしています。対象とした5つの地域それぞれで、何かが変わる手助けができたようです。

さまざまな問題を抱えながら、たくましく活動を続けるパサンバオを、今年度は活動の継続に必要な最小限の資金支援で見守りたいと考えています。

* * * *

このパサンバオの活動を評価して下さった「WE21みどり」から助成をいただくことになりました。助成金はパサンバオスタッフの手当に充て、HANDSは毎月の保健ボランティア研修や各村年2回程程度の家族計画研修、夏休みの割礼巡回診療などの経費を支援します。